

## 1 図書館の動き

### 1.1 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応

#### (1) 開館日数・入館者数等

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、本学の活動制限指針レベルの設定に応じて、図書館の開館は臨時休館や開館時間の制限を余儀なくされた。図書館の通常開館に影響が出始めたのは、2020年3月上旬以降から短縮開館を開始した頃である。それ以降状況が悪化したため3月末の土日には臨時休館となり、そのまま引き続いて2020年度を迎え、4月1日以降も平日の閉館時間を早めた短縮開館となった。間もなくして、4月7日より緊急事態宣言が発出されたことにより、翌日4月8日から大学全体が入構制限措置を実施し全館臨時休館となった。5月25日に緊急事態宣言が解除となり、6月1日に本学の活動制限指針レベルが1段階下がったことに伴って、図書館も同日から入館対象者及び平日開館日を限定し、短縮限定開館を開始した。この6月1日から開館を再開したのは、首都圏主要大学の中では最も早い対応となった。また館内での混雑を避けるため、急きょ中央図書館事務室の閲覧担当が中心となり、各地区の閲覧担当と協力して大学のポータルシステム（Oh-o!Meiji）を利用した入館予約システムを構築し運用することとなった。入館上限を定めても混雑は見られなかったため、入館予約の形態をやめ、館内利用を認めた学内者であれば自由に入館を可能とした。それ以降も緊急事態宣言の発出・解除に伴い本学の活動制限指針レベルに応じて開館が左右され、館内の三密の回避による利用制限や清掃・消毒の徹底を行うことで徐々に短縮開館の時間を拡大、そして図書館サービスも拡大していくことができた。利用者も徐々にではあるが増え、館内は密集しない環境が保たれ運営することができた。詳細な開館状況については、以下の表にまとめた。なお、図書館の利用にあたっては、入構制限指針や図書館館内利用の密集を避けるため、学内関係者のみの利用とし、校友や近隣住民等の学外者はやむを得ず利用不可とした運用となった。

	本学図書館の開館状況
2020/4/1	<ul style="list-style-type: none"> <li>4/1～7の図書館開館時間短縮変更（通常開館予定からの変更）</li> <li>&lt;中央・和泉・生田・中野図書館&gt;</li> <li>平日・土 8:30～17:00, 日 10:00～17:00</li> <li>&lt;ローライブラリー&gt;</li> <li>平日・土 9:30～17:00, 日 10:00～17:00</li> </ul>
4/4	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館通常開館から、以下の日を臨時休館へ変更を決定</li> <li>・4/4(土), 5(日), 11(土), 12(日), 18(土), 19(日), 25(土), 26(日), 29(水・祝), 5/2(土)～6(水・祝)</li> </ul>
4/8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館（ローライブラリー含む）全館臨時休館（～5/6まで）を決定</li> </ul>
4/22	【活動制限指針レベル4を設定】
5/1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館（ローライブラリー含む）全館臨時休館延長（～5/24）を決定</li> </ul>
5/8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館（ローライブラリー含む）全館臨時休館延長（～5/31）を決定</li> </ul>
6/1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館開館再開（短縮・限定開館開始）</li> <li>【活動制限指針レベル4→3】</li> <li>月・水・金のみ 11:00～16:00</li> <li>入館対象者：教職員・大学院生（専門職大学院，非正規生含む）・学部4年生および早期卒業予定の3年生※学部生は4年生および3年早期卒業予定者限定かつ曜日指定による入館。学部生は所属キャンパス図書館のみ利用可。学外者利用不可。生田図書館のみ入館予約要（生田キャンパス全体的な運用のため）。</li> <li>※貸出のみのサービスとし、閲覧席の利用は不可</li> <li>・ローライブラリー：再開を伺うも結果2021年3月31日まで臨時休館</li> </ul>

6/17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館入館運用変更（入館対象者の拡大）</li> </ul> <p>6/1の入館対象者に加え，学部生の全学年および院生・学部生非正規生，特別利用者<b>91</b>の入館可。また全学部生の曜日指定をなくし，非正規生を加えて予約制による入館（各地区入館上限あり。上限は中央：350，和泉：200，生田（生田のみ院生含）：50，中野：40）へ変更。学外者利用不可。</p> <p>※貸出のみのサービスとし，閲覧席の利用は不可</p>
7/1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館入館運用変更（開館時間拡大）</li> </ul> <p>【活動制限指針レベル3→2】</p> <p>月～金 10:00～17:00</p> <p>名誉教授・退職教職員等の入館可を追加。学部生の予約入館を中止し，通常入館可。学外者利用不可。</p> <p>※貸出のみのサービスとし，閲覧席の利用は不可</p>
7/11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館入館運用変更（土曜日開館追加）</li> </ul> <p>月～土 10:00～17:00 ※学外者利用不可</p> <p>※貸出のみのサービスとし，閲覧席の利用は不可</p>
8/1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏期休暇体制。夏期休暇中の図書館開館予定時間を変更。（9/19まで）</li> </ul> <p>月～金 10:00～17:00 を継続。※学外者利用不可</p> <p>※貸出のみのサービスとし，閲覧席の利用は不可</p>
9/7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・閲覧席の席数を制限して利用再開。あわせて，貸出用PC利用および貴重書閲覧・マイクロの利用や，各地区それぞれ利用開始できるサービスも適宜再開。</li> </ul>
9/20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋学期開始に伴い，図書館入館運用変更（開館時間等拡大）</li> </ul> <p>月～土 8:30～19:00，日曜（中央のみ 10:00～17:00）※学外者利用不可</p>
11/9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制限していたカウンターの運用を再開。カウンターサービスを原則通常どおりとする。</li> </ul>
12/14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・＜中央・和泉＞定期試験およびレポート作成期間であることを考慮し，図書館入館運用変更（平日開館時間延長）</li> </ul> <p>平日 8:30～21:00 に拡大（～1/8まで・年末年始休館は除く）</p>
12/21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・＜中野＞定期試験およびレポート作成期間であることを考慮し，図書館入館運用変更（平日開館時間延長）</li> </ul> <p>平日 8:30～21:00 に拡大（～1/8まで・年末年始休館は除く）</p>
2021/1/8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・＜生田＞定期試験およびレポート作成期間であることを考慮し，図書館入館運用変更（当日のみ開館時間延長）</li> </ul> <p>8:30～21:00 に拡大</p>
1/10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・＜生田・中野＞図書館入館運用変更（日曜開館再開）</li> </ul> <p>10:00～17:00</p>
1/12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館全館入館運用変更（平日開館時間短縮）</li> </ul> <p>【活動制限指針レベル2→3】</p> <p>平日 月～金 8:30～19:00（～2/3まで）※土・日は変更なし</p>
1/17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・＜和泉＞定期試験およびレポート作成期間であることを考慮し，図書館入館運用変更（日曜開館再開）</li> </ul> <p>10:00～17:00（～1/31まで）</p>
2/12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・＜中央＞図書館入館運用変更（平日開館時間短縮）</li> </ul> <p>平日 月～金 9:00～19:00（～3/19まで）※土・日は変更なし</p>
3/22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・＜中央＞図書館入館運用変更（平日開館時間延長）</li> </ul> <p>【活動制限指針レベル3→2】</p> <p>平日 月～金 9:00～21:00（～3/31まで）※土・日は変更なし</p>

## ●臨時休館

休館日等変更数：2020 年 4 月 1 日→2021 年 3 月 31 日

	休館（定例休館）【A】	開館→臨時休館【B】	休館（定例休館）→開館【C】	2020 年度休館日数 【A】 + 【B】 - 【C】
中央	32	79	1	110
和泉	43	100	2	141
生田	26	93	0	119
中野	32	98	2	128

中央図書館短縮開館開始にあわせて、ローライブラリー所蔵資料の貸出が可能な方に限り、中央図書館 B2 カウンターでの出納方式により対応。

## ●予約入館について

6 月 17 日から 6 月 30 日までの月・水・金曜日限定で、全館で事前予約制による予約入館の運用を実施した。詳細については以下のとおりである。

## ①予約入館運用前（6 月 1 日～15 日）：短縮・限定開館（本学活動制限指針レベル 3）

本学の活動制限指針がレベル 4 から 3 に引き下げられたことに伴い、図書館では 6 月 1 日より月・水・金（11:00～16:00）の曜日・時間を限定し、教職員（専任教員・特任教員・客員教員・兼任講師・専任職員）、大学院生（専門職大学院・非正規生含む）、学部 4 年生および早期卒業予定の 3 年生（いずれも卒業論文・研究を目的とする）に限定して開館していた。サービスの提供としては、貸出および館内複写のみで、閲覧席の利用は不可とした。学部生においては、学部ごとに曜日を指定し、所属するキャンパスのみ利用可とした。4 月 8 日からの臨時休館による約 2 か月弱の連続休館を解除するにあたり、来館者数の予測は難しかったが、まずは館内で密集を作らないために、来館目的を授業準備ならびに研究支援、卒業・修了支援に絞り、状況をみながら段階的にサービスを拡大していくという限定的開館を実施することとした。

なお、生田キャンパスでは、この期間、入構自体が事前に許可されたものに限られていたため、生田図書館では大学院生および学部生に対し、独自に Microsoft Forms を利用した事前予約・許可通知を実施していた。

## ②予約入館運用に向けての準備

上記限定開館の次のステップとして、1 年～3 年の学部生の入館を再開、「卒業論文・研究を目的とする」という目的制限および学部生の曜日制限を撤廃するため、事前予約による予約入館の運用について、6 月上旬より閲覧部署連絡会を中心に検討を行った。来館しての利用状況が想定よりもかなり少ないこと、そして特に、定期試験もほとんどがレポート作成などで代用されることから、図書館資料の需要が見込まれるという予測があった。

まず、予約受付システムについては、システムでの新規開発は行わないと判断したため、閲覧部署連絡会が全館で既存の学生ポータル Oh-o!Meiji システムのアンケートフォームを検討し、これを採用した。ただし、当時授業はほとんどがオンラインとなり、大学からの連絡も主に Oh-o!Meiji システムで行われていたことから、Oh-o!Meiji システムは通常より負荷がかかりやすいとの懸念があったため、受付期間（時間）についてはメディア支援事務室へ確認の上、設定した。

館内の密集に対する対策としては、予約定員を中央（350 名）、和泉（200 名）、生田（50 名）、中野（40 名）に設定した。

予約入館の対象者は、学部 1 年から 4 年生（非正規生含む）とし、教職員・大学院生は自由入館とした。ただし、生田図書館のみキャンパス入構時に事前予約受付完了済みの提示（画面またはプリントアウト）が必要だったため、大学院生も予約入館の対象とした。

また、予約者のデータダウンロード、予約受付完了通知の送信、入館ゲート設定作業（システム担当）など各種工程が必要であることを検証し、シミュレーションやテスト配信などの流れを入念に確認した。当時、本学では職員は週 2 日の在宅勤務の併用を行っていたため、人員体制も考慮し、受付の手順を以下のようにまと

めた。アンケートの配信は、各館で定員（上限）の管理が必要なことから、館および入館日ごとに配信することとした。

その他、事前告知文の作成、アンケートのフォーム作成、予約受付完了通知の定型文などを日本語・英語それぞれで作成した。

入館日	予約受付日（アンケート配信期間）	予約者データダウンロード 予約受付完了通知送信 入館ゲート設定作業
6月17日（水）	6月15日（月）0:00～23:59:59	6月16日（火）
6月19日（金）	6月17日（水）0:00～23:59:59	6月18日（木）
6月22日（月）	6月18日（木）0:00～23:59:59	6月19日（金）
6月24日（水）	6月22日（月）0:00～23:59:59	6月23日（火）
6月26日（金）	6月24日（水）0:00～23:59:59	6月25日（木）
6月29日（月）	6月25日（木）0:00～23:59:59	6月26日（金）

### ③提供サービス

貸出可能な図書・雑誌の自動貸出機の利用による貸出、図書・雑誌の複写のみとし、閲覧席の利用は不可、他機関からの取寄せやレファレンスサービスは停止。これは6月1日からの短縮・限定開館と同様である。

### ④広報

予約入館を開始するにあたり、事前告知を Oh-ol!Meiji お知らせ機能により全教員、全大学院生・学部生（いずれも非正規生含む）に配信した。

その他、図書館ホームページのニュース（開館に関する単独ニュース、全般的な運用状況を案内しているニュースの修正）にて周知を図った。

### ⑤入館者数

6月17日（水）	中央 67名	和泉 51名	生田 28名	中野 16名
6月19日（金）	中央 75名	和泉 45名	生田 25名	中野 10名
6月22日（月）	中央 42名	和泉 47名	生田 26名	中野 5名
6月24日（水）	中央 73名	和泉 57名	生田 35名	中野 9名
6月26日（金）	中央 50名	和泉 44名	生田 27名	中野 13名
6月29日（月）	中央 30名	和泉 30名	生田 11名	中野 6名

### ⑥予約入館後

7月1日より活動制限指針レベルは3から2へ引き下げられたことから、予約入館は中止とし、学内関係者のうち入館可能な利用者の範囲を広げ、通常の入館方法へ変更した。利用時間や開館日（曜日）も拡大した。その後もサービスの拡大は徐々に実現されていき、2020年度はそれ以降予約入館の体制をとることはなかった。

**(2) 教育・研究支援**

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、前述のとおり図書館の開館が臨時休館や開館時間の制限を余儀なくされたことにより、利用者への図書館サービスの在り方も変容し、それぞれに対応しなければならなかった。大学の方針により図書館員の在宅勤務による交代勤務となる期間もあったが、学内利用者を対象に郵送サービス（図書、所蔵雑誌複写等）や自宅からも使える電子サービスのコンテンツの作成等の新しいサービスへの対応、開館の再開準備や通常業務を行う等、学内利用者の立場で図書館がなすべき新しい教育・研究支援を検討し、図書館資料が有効活用できる手段を講じてきた。特筆すべきは、各種郵送サービスの受付システムについては、新しいサービスの運用検討と並行して各地区閲覧担当者が協力し、大学のポータルシステム（Oh-o!Meiji）や Microsoft Forms の使い勝手を検証しながら構築したことである。また、図書館本来の通常業務や図書館利用再開にあたっては、大学資産管理部署の協力のもと、利用者とカウンターの間にビニールシート等の設置、閲覧席における利用者間の間仕切りの設置や座席の間引き、手指消毒用及び机用アルコールの設置やペーパータオルを設置、清掃業者へのアルコール消毒体制の強化により、新型コロナウイルス感染拡大防止体制を整え、安全に利用できる環境を提供することで教育・研究支援に対応した。

また、年度始めに対面で実施している各種ガイダンス等については、生田図書館を除き、大学院・専門職大学院法務研究科新生ガイダンスは中止し、配布資料をPDF化して対応。図書館新任教員ガイダンスについても同様とし、個別に資料を郵送して対応した。ゼミ別ガイダンスについても原則中止とした。生田図書館では、ゼミ別ガイダンス、出前授業ともに対面実施はせず、教員がオンラインで実施した。

**●サービス体制の変更（統計を含む）**

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、新しく対応した図書館サービスは以下のとおり。

図書郵送貸出サービス ※臨時休館、短縮開館に伴い、新規に実施

- ① 5/11～5/31 対象：大学院生（非正規生含）、教員（専任・兼任）  
件数：408件、貸出冊数：1567冊
- ② 7/6～7/31 対象：学部生・大学院生（非正規生含）  
件数：406件、貸出冊数：1421冊
- ③ 11/9～12/20 対象：学部生・大学院生（非正規生含）  
件数：111件、貸出冊数：392冊
- ④ 1/8～1/24 対象：学部生・大学院生（非正規生含）、教員（専任・兼任）  
件数：198件、貸出冊数：653冊
- ⑤ 1/25～2/3 対象：学部生・大学院生（非正規生含）、教員（専任・兼任）  
件数：128件、貸出冊数：467冊

所蔵雑誌複写郵送サービス ※臨時休館、短縮開館に伴い、新規に実施

- ① 5/18～5/27 対象：大学院生（非正規生含）、教員 複写依頼件数：254件
- ② 11/9～12/20 対象：学部生・大学院生（非正規生含）複写依頼件数：47件
- ③ 1/8～1/24 対象：学部生・大学院生（非正規生含）複写依頼件数：41件
- ④ 1/25～2/3 対象：学部生・大学院生（非正規生含）複写依頼件数：80件

ILL 複写郵送サービス ※臨時休館、短縮開館に伴い、郵送送付については新規に実施

- ① 6/1～9/30 対象：学部生・大学院生（非正規生含）、教員 複写件数：531件
- ② 11/9～12/13 対象：学部生・大学院生（非正規生含）の郵送希望者のみ 複写件数：34件
- ③ 1/8～3/26 対象：学部生・大学院生（非正規生含）複写件数：460件

なお、5/31までにILLを申し込まれて受取に来ていない方へも別途郵送手配。

国立国会図書館 (NDL) デジタル化資料送信サービス

- ※メールによる利用予約。臨時休館、短縮開館に伴い、新規に実施
- ・6/29～10/14 対象：学部生・大学院生（非正規生含）、教員（専任・兼任） 9件

オンライン図書館サービス

①図書館 HP：「図書館オンラインガイダンス（まとめページ）」コンテンツ作成（2020年4月10日公開）

< <https://www.meiji.ac.jp/library/special/guidance.html> >

- ・図書の探し方・論文の探し方【動画あり】
- ・資料・情報の探し方
- ・2020年度大学院新生向け資料（駿河台キャンパス・中央図書館）(PDF)

②図書館 HP：「自宅からも使える電子資料（まとめページ）」コンテンツ作成（2020年4月17日公開）

< [https://www.meiji.ac.jp/library/special/e-resource\\_list\\_g.html](https://www.meiji.ac.jp/library/special/e-resource_list_g.html) >

- ・自宅からも使える電子資料（電子ブック、電子ジャーナル、新聞記事データベース、特別トライアル、期間限定のフリーアクセス資料）をまとめたもの。図書館は、書店・ベンダーと交渉し、一定期間同時アクセス数を多くしてもらえるよう働きかけ実現。

③メールによるレファレンスサービス（2020/5/1開始）

- ・対象：学部生・大学院生（非正規生含）、教員（専任・兼任）

通常開館時から継続して実施しているサービスであるが、改めて学外から利用できるサービスとして告知し、利用を促した。

貸出中資料の返却配慮

- ・学内者：郵送による返却及び返却ポストへ返却を案内。臨時休館中が返却日の資料については、一律して返却期限日を延長し、また延滞罰則対象としないよう配慮。
- ・学外者：郵送による返却及び返却ポスト返却依頼を案内。当面の間は延滞本が返却された際に延滞罰則対象としないよう配慮。

●リテラシー教育・ガイダンス対応

①新学期ガイダンスの対応（新生・新任教員）

新生生に対しては、これまで各館とも各学部の新入生指導週間及び大学院の新年度ガイダンスにおいて説明時間を設けてもらい、講演会形式で行ってきたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い学年暦が大幅に変わり、利用案内等の資料配付、図書館内での掲示による説明に変更。その後、学部生に関しては、秋学期の開始に合わせて各学部のガイダンスが行われたことから、キャンパス及び学部の事情に合わせて、館内見学の対応、館内紹介動画の提供を行った。

また、新任教員に対しても、これまでは各館とも4月上旬に館長及び事務担当者による説明会を開催してきたが、開催不可能な状況となり、対象者に関係資料の送付、メール等での案内を行い、質問を受け付ける形式に変更した。

②各種ガイダンスの対応（ゼミツアー・オンラインコンテンツ）

春学期は、授業開始日が二度変更になり、従来の日程、形式での開催ができなくなったため、全教員、学生には、LMS（学習管理システム：Learning Management System）を通じて、館内紹介、図書や論文の探し方の動画、電子ブック、データベース等のオンライン情報源の案内を行った。動画等は図書館のホームページ上に置いて、いつでも見られるようにしているが、トップページから簡単にアクセスできるよう、関連情報のまとめページを設けたほか、寄せられる問い合わせ等を踏まえて従来のページにも説明を追加して、利便性の向上を図った。

また、秋学期に向けては、各館において、オンライン授業教材の作り方を参考に新規の動画を制作し、提供を行った。

### ③図書館活用法

どの学部 of 学生も履修できる全学共通総合講座科目の1つであるため、学内の授業実施についての方針に沿って、実施方法の変更を検討した。今年度は、春学期、秋学期で計4コマを開講したが、作業グループ担当者間で日程等細かい検討を行った後、各コーディネーター教員との調整、図書館長を座長とする会議体での決定を経て、全てのコマ、全ての回を対面授業からオンデマンド型のオンライン授業に変更して行うこととしてコンテンツを制作し、LMSを通じて配信した。

また、学期終了後は、学生からの質問、各講師から寄せられたコメント等により、関係者間で振り返りを行い、改善を図った。

### ●HP対応

図書館サービスの休止や変更に伴う広報のため、図書館HPの改訂作業を随時行った。トップページの上部には、重要なサービス内容の変更のお知らせを掲示（詳細情報へのリンク作成）、同ページの開館カレンダー部にサービス対象者を明示、各ページの上部にサービス内容が変更となっていることを明示した。特に、年度を通じてサービス対象外となった学外者へのお知らせはHP上での広報に限られるため、そのことがよく分かるよう配慮しつつHPへの掲載・修正作業を行った。また、サービス内容変更等のお知らせは、留学生にも配慮し、従来とは異なり日本語のほか英語も併記してHPに掲出した。これらサービス内容変更に関するお知らせを重点的に行ったほか、オンライン授業に伴う自宅学習に活用できるよう、オンラインで利用できる電子資料のまとめページ「自宅からも使える電子資料（まとめページ）」や「オンラインガイダンス・講習会」のページを新規作成し公開した。なお、「まとめページ」は、学習に有用と考える電子ブックや電子ジャーナル、データベースを図書館員が厳選して掲載したほか、トライアルで利用できるもの、期間限定でフリー公開された電子資料もあわせて1つのページにまとめて公開を行った。

### (3) 施設・設備

#### 中央図書館

中央図書館では感染防止対策として、非接触型体温計の配備、館内各階の主要箇所消毒液や除菌シートの設置、入館ゲート付近に非接触型検温器の設置（明大通り口を使用して入館する場合）、各カウンターに飛沫防止シートの設置などを行い、清掃業者に対しては、清掃時に消毒もあわせて行うよう依頼し実施した。

閲覧席は、1人おきに着席させる等の席数制限措置を、大学の活動制限指針レベルに応じて行った。次年度に向けた対応としては、飛沫防止対策として窓側に向いている閲覧席の席間に半透明のプラスチックダンボールを設置し、間隔を空けずに着席できるように準備をした。

グループ閲覧室や共同閲覧室などは飛沫感染リスクが高いと判断し、ほぼ1年間閉鎖していたが、次年度の利用に向けて、透明の亚克力板を室内に設置し、席数制限の上で利用できるように準備をした。

スタッフの感染防止対策としては、前述の飛沫防止シートなどのほかに、必要に応じてフェイスシールドや手袋の着用などを準備し、利用者対応を行った。

換気については、大学側の感染防止対策の一環として、閲覧席の換気量を通常よりも増やす措置（通常はCO2濃度が1000ppmを上回ったら換気量が一段と増えるところを、500ppmを上回ったら一段と増えるように設定を変更）を行っていたが、外気の湿度が高い時には、カビの発生や窓の結露が広範囲かつ大量に発生したため、通常の換気設定に戻すよう依頼をした。なお、通常の換気量でも、国が定めた換気量は満たしている。

カビについては、中央図書館内（B2階ロダンルーム、B3階共同閲覧室、B3階地図書）及び研究棟内（1階和装本コーナー、B1階書庫）の各室内において発生が確認されたため、それぞれ専門業者によるカビ除去作業を行った。カビ発生の原因のひとつとして、特に中央図書館内においては、入館者の利用を制限していたことによる、空調稼働時間の減少があると推測される。

#### 和泉図書館

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための取り組みに関しては、基本的に4館で検討のうえ、必要な物品を調達して当たった。当初は、物品の不足、人員の確保等、調整に時間を要したものもあった。主な取り組みは以下のとおりである。

- ・館内各所への手指消毒剤及びペーパーの設置
- ・閲覧席、ドアノブ、トイレ等の消毒清掃の手配
- ・館内換気強化及び館内ドアの開放
- ・閲覧席を始めとする座席位置の調整（間引き等）
- ・使用中止エリアの設定
- ・窓口への飛沫感染防止シートの設置
- ・窓口担当者用の手指消毒剤、フェイスシールドの配置

#### 生田図書館

生田図書館での新型コロナウイルス感染症への対応については以下のとおり。

- ・カウンターへの飛沫防止シートの設置（貸出カウンター2枚、レファレンスカウンター1枚）
- ・カウンターへの飛沫防止シートの追加設置（マルチメディアカウンター3枚）
- ・清掃業者による消毒は、トイレ（ドアノブ、各個室で手が触れる箇所）、館内階段部手すり。明サポによる消毒は、OPAC、コピー機、エレベータ（ボタン、手すり）など。（開館前と13時に実施）
- ・換気のため窓を開けた。
- ・事務室内の事務机にパーティションを設置した。
- ・会議室、選書室での会議を中止した。
- ・消毒スプレーの設置（入館ゲート付近）
- ・除菌シートの設置（各閲覧席付近）
- ・貸出カウンターでの貸出は自動貸出機のみで対応

- ・図書返却は貸出カウンターでは受け取らず、貸出カウンター横に返却図書ボックスを設置し、これに入れてもらい24時間以上経過してから返却処理を行う。
- ・返本台に置かれた本は、翌日開館後に返本する。

## 中野図書館

中野図書館では感染防止対策として以下の対応を行った。

### ・閲覧席

6月1日から9月5日までは全閲覧席利用停止としてテープを貼りめぐらせ立入禁止としたが、9月6日より52席を利用可とし、その後利用状況を見て2021年1月19日に65席に増やした。なお中野図書館の全閲覧席数は172席で、65席は約37%にあたる。2020年度中はオンライン授業中心で入館者も少なかったためこの席数でも足りない状況は見られなかった。また複数人掛けの机はもともとパーティションが設置されていたため、閲覧席に新たにパーティションを設置することはなかった。

閲覧席の中野キャンパスの清掃担当による消毒等は開館前に1回行われ、加えて中野図書館職員が日中に消毒作業を行った。また、館内3か所にOA機器用ウェットクリーナー・拭き取り剤（かんたんマイペット）・ペーパータオル・蓋付きごみ箱を設置し、閲覧席利用時に利用者自身でも消毒するよう促した。ほか手指消毒のためのアルコールは設置済みだった入口に加え、館内1か所にも設置した。

中野図書館にはグループ学習のための部屋や個室はなく、これらへの対応はなかった。

### ・資料の保管

資料保存環境の維持のため、4月20日に中野キャンパス事務室に臨時休館中も含めた館内の換気体制について確認したところ、感染拡大予防のため時間を拡大し7時から22時に「換気」を常時運転する体制とのことだった。この稼働時間以外は湿度・温度のコントロールができず、22時以降換気は行わない方が温度湿度の急激な変化を避けられるため、換気時間の追加要請は行わなかった。中野図書館の資料は新しいものが大半であることもあってか、資料や館内にカビ被害は生じなかった。

### ・カウンター、事務室

貸出・レファレンス両カウンターには、対応時の会話による飛沫防止のため、中野キャンパス事務室により5月19日にビニールカーテンが設置された（7月6日さらに追加）。職員間での飛沫防止の対策はそれより遅く、対面する事務室机の間に透明パーティションを12月16日に設置、さらに事務室とカウンターの、隣り合う席の間に2021年1月28日に追加した。これらは設置以降、毎日消毒しながら使用している。

事務室の机・棚などの備品類・パソコンと周辺機器・コピー機といった職員が触れるものは、毎朝執務前に図書館職員が消毒を行った。

また、通常時は事務室と図書館内は扉で隔て、廊下に面した事務室の扉も閉めた状態で執務を行っていたが、換気のため両扉とも常時開放とした。このため冬期は執務中寒く、中野キャンパス事務室よりヒーターを2台借りて暖房を追加した。

コロナ拡大に伴い会議はオンラインとなったが、事務室が小さく、かつ館内との境の扉を開放したため、声を出すオンライン会議への参加にあまり適した環境ではなかった。このため、対象者がおらず、未使用の特別支援閲覧室を一時的にオンライン会議に使えるよう整備して使用した。

このほか事務室内休憩用テーブルは、休憩時の会話による感染拡大を防ぐために4席から2席へ減らし、さらに透明パーティションを設置して、事務室に自席のない職員のみが休憩時に使うこととした。これは、交代で休憩する体制とはいえ10名の業務委託職員を含む職員の休憩場所としては不十分で、職場環境の課題のひとつとなった。そのほか休憩スペース流しにて共用していたふきん類はペーパータオル等使い捨てのものに変更した。

**(4) 蔵書構築への影響**

## ● 図書の発注

図書発注では主に 4 月～7 月にかけて影響を受けた。以下学習用と研究用にわけて記述する。

## ・ 学習用

学習用選書における主なものは見計らい選書であるが、書店の持ち込み回数を通常より少なくした館はあったが停止した館はない。ほかの選書手段（カタログや購入希望）も継続していた。しかし、臨時的在宅勤務体制が敷かれたことで、見計らい図書の現物チェック、重複調査、発注データ作成、発注データ投入、発注票の書店への受渡し等ができず、処理の遅延が発生した。

授業が全面オンラインで行われることを受け、重視したのは電子ブックの購入である。行った方策としては、教員に対して学習用推薦図書を電子ブックでも受付している旨、Oh-olMeiji で広報を行う、教科書や参考図書に指定されているタイトルを電子媒体でも購入する、岩波書店の新書文庫のパッケージ購入（購読型）をする、などである。オンライン授業下では、学習用推薦図書の電子ブック購入依頼が殺到するのではと予想していたが、実際の申込件数は予想より少なかった（表 1）。理由としては、①オンライン授業の準備で忙しく、電子ブックを探すことまで手が回らなかった、②希望するタイトルが、明治大学図書館が契約している電子ブックプラットフォームでは扱っていなかった、③すでに教科書や参考図書を電子ブックで購入していた、④試読サービス（Maruzen eBook Library, Oxford Scholarship Online, Cambridge Core eBooks 等）を利用していた、⑤ COVID-19 対応で版元が開放した電子資料を利用した、などが挙げられる。③、④については、近年取り組んできたことであり、⑤に関しては電子資料担当が迅速に対応した結果である。

表 1 学習用推薦図書 電子ブックの申込件数と発注件数

件数・館	中央	和泉	生田	中野	合計
申込件数	30	2	4	4	40
発注件数	16	1	4	4	25

## ・ 研究用

研究用は教員により選書が行われるが、2020 年度は研究用図書と研究用基礎資料について申込方法を変更した。教員より「授業がオンラインで行われている中、大学に行かないので研究用図書の申請がしにくい。メール等で受付してほしい」との要望があったためである。

従来は①教員が購入希望図書の情報（カタログ等）を図書委員に提出する。②各学部図書委員が承認したものは押印し、図書館に提出、という流れであったが、変更後は、各教員から図書委員への資料提出や図書委員から図書館への提出もメールで行うこと、図書委員の押印、研究用基礎資料の学部内順位付けの記入を省略することを可とした。ただし、図書委員からの連絡であることが判別できるメールアドレスから送信すること、研究用基礎資料の学部内順位付けはメール文中で提示するなどを条件とした。

しかしながら、オンライン授業の準備に追われる中、教員が選書に割く時間を持ちにくかったと思われ、研究用図書、研究用基礎資料とも発注件数は例年より少なかった（表 2）。

表 2 2017-2020 の発注件数の推移

種別\年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
研究用図書	1493	1156	1184	944
研究用基礎資料	27	27	28	18

## ● 図書・雑誌受入

2020 年度受入において、特に冊子体洋図書・洋雑誌は、コロナ禍にあつて刻々と変貌する各国の出版・輸出状況、及び日本側輸入体制等が複雑に絡み合い、納入の予測が全くできない状態であった。1 年が経過した現在、冊子体・電子資料の受入状況について、コロナ禍以前：2017 年度からの経年変化を調査した。

表 1 に示す冊子体図書・雑誌の受入数推移について、2020 年度の A：前年度（2019）比では、図書合計

87.4%, 雑誌合計 91.9%であった。この数値からだけでは、減少とはいえ、蔵書構成へ多大な影響がある、との印象は受けない。

さらに図書についてみると、同A比の和洋別では、和 88.4%・洋 80.8%であった。同年度のB：2017年度比では、全体では 98.4%であったが、和 105.9%に対し洋 63.0%と差があり、またB比を経年のみても、和図書はほぼ増加傾向だが、洋図書は明確な減少傾向にある。

雑誌は、2020年度A比の和洋別では、和97.2%に対し洋85.7%と、減少は洋雑誌に因るところが大きい。また、同年度B比では、全体では 73.6%で、和 91.6%・洋 57.8%とさらに差が著しい。B比の経年的には、和雑誌が減少傾向とはいえ、大きな変動がないのに対し、洋雑誌では 2018-19年度に著しく減少している。一方で後述表2の洋電子ジャーナルは逆に支払額増しており、これらは、同時期に実施された、大規模な洋雑誌の電子資料移行に因ると考えられる。

次に電子資料であるが、本学の受入データ運用上、冊子体と同様な冊数のDB抽出ができない。このため、支払額の推移を表2に示す。

電子ブックについては、2020年度A比は、全体 115.6%・和 222.3%・洋 74.3%である。同年度B比では、全体 215.0%・和 270.0%・洋 174.1%と、和洋ともに増加しているが、特に和資料の支払額増が大きい。D：冊子体支払額との対比では、全体で 2017年度 14.5%, 2020年度 39.8%であり、全体的には増加傾向であるが、年度・和洋別での変動がある。

電子ジャーナルは、2020年度A比が、全体 99.7%・和 122.0%・洋 99.7%, 同年度B比は、全体 133.5%・和 131.9%・洋 133.5%である。しかし、同年度D比では、和 2.6%・洋 660.6%と差は著しい。また同年度電子支払額も、洋は和の約 800倍で、同年度C：冊子体支払額の洋和差 3倍強に較べても、文字通り桁違いに差が大きい。なお、電子ジャーナル・冊子体雑誌とも、特に洋資料は、前払契約が多く、実際年度内納品の状況（納入遅延・欠号など）は、当該年度内にはほぼ反映されない。

以上の経年変化をみても、計画的な電子資料導入もあって、コロナ禍との因果関係を特定するのは困難である。しかし、いずれに起因するにせよ、特に冊子体洋図書は、経年的な受入減少傾向がみられる。過去には冊子体洋図書の購入促進をはかった時期もあったが、今回コロナ禍で再認識された電子媒体の購入・利用上物流が不要というメリットをも踏まえて、改めて今後の蔵書構成上の位置づけや、収集の方向性を確認する必要がある。

表1：冊子体受入冊数推移 単位：千冊 (A: 対前年割合 /B: 対 2017 割合)

受入 年度	図書			雑誌		
	合計	和図書	洋図書	合計	和雑誌	洋雑誌
2017	20.2 (A:-%/B:100.0%)	16.7 (A:-%/B:100.0%)	3.5 (A:-%/B:100.0%)	14.5 (A:-%/B:100.0%)	6.7 (A:-%/B:100.0%)	7.8 (A:-%/B:100.0%)
2018	22.5 (A:111.2%/B:111.2%)	19.4 (A:116.5%/B:116.5%)	3.1 (A:86.4%/B:86.4%)	13.4 (A:92.9%/B:92.9%)	6.4 (A:95.4%/B:95.4%)	7.0 (A:90.7%/B:90.7%)
2019	22.8 (A:101.1%/B:112.5%)	20.0 (A:102.9%/B:119.8%)	2.8 (A:90.2%/B:77.9%)	11.6 (A:86.2%/B:80.0%)	6.3 (A:99.2%/B:94.6%)	5.2 (A:74.4%/B:67.5%)
2020	19.9 (A:87.4%/B:98.4%)	17.7 (A:88.4%/B:105.9%)	2.2 (A:80.8%/B:63.0%)	10.6 (A:91.9%/B:73.6%)	6.2 (A:97.2%/B:91.9%)	4.5 (A:85.7%/B:57.8%)

※図書冊子体抽出対象は、データ項目の整備されている固定費購入（資産管理内訳表の”DB”に相当（＝未製本図書）を含まない、＝単冊登録する逐次刊行物（逐・P単）を含む、但し”除籍”を含む）とした。また、雑誌冊子体抽出対象は、同様に固定費購入（資産管理内訳表の”雑誌”に相当（＝製本雑誌を含まない、＝単冊登録する逐次刊行物（逐・P単）を含まない、但し”除籍”を含む）とした。

表2:電子資料支払額推移 単位:百万円 (A: 対前年割合 /B: 対2017 割合 /C: 同年度冊子体支払額 (百万円)/  
D: 同左に対する電子割合)

受入 年度	電子ブック			電子ジャーナル		
	合計	和資料	洋資料	合計	和資料	洋資料
2017	21.4 (A: - %/B:100.0%/ C:148.3/D:14.5%)	9.2 (A: - %/B:100.0%/ C:74.5/D:12.3%)	12.3 (A: - %/B:100.0%/ C:73.8/D:16.7%)	179.6 (A: - %/B:100.0%/ C:105.5/D:170.3%)	0.2 (A: - %/B:100.0%/ C:11.5/D:1.7%)	179.4 (A: - %/B:100.0%/ C:94.0/D:190.8%)
2018	19.3 (A:90.1%/B:90.1%/ C:142.9/D:13.5%)	7.0 (A:76.2%/B:76.2%/ C:85.5/D:8.2%)	12.4 (A:100.5%/B:100.5%/ C:57.5/D:21.5%)	214.5 (A:119.4%/B:119.4%/ C:98.1/D:218.6%)	0.2 (A:96.0%/B:96.0%/ C:11.2/D:1.7%)	214.3 (A:119.4%/B:119.4%/ C:87.0/D:246.4%)
2019	39.9 (A:206.5%/B:186.1%/ C:128.7/D:31.0%)	11.1 (A:159.4%/B:121.4%/ C:79.9/D:13.9%)	28.8 (A:233.0%/B:234.2%/ C:48.9/D:58.9%)	240.4 (A:112.1%/B:133.8%/ C:48.5/D:496.0%)	0.2 (A:112.7%/B:108.2%/ C:11.5/D:1.9%)	240.2 (A:112.1%/B:133.9%/ C:37.0/D:649.1%)
2020	46.1 (A:115.6%/B:215.0%/ C:115.8/D:39.8%)	24.7 (A:222.3%/B:270.0%/ C:74.2/D:33.3%)	21.4 (A:74.3%/B:174.1%/ C:41.6/D:51.5%)	239.7 (A:99.7%/B:133.5%/ C:46.5/D:515.1%)	0.3 (A:122.0%/B:131.9%/ C:10.3/D:2.6%)	239.5 (A:99.7%/B:133.5%/ C:36.3/D:660.6%)

※電子ブック集計対象は、固定費購入で、資料形態が電子ブック（よってデジタル資料費 (= 支払手数料) 購入のサブスクリプションは除外) とした。また、電子ジャーナル集計対象は、デジタル資料費 (= 支払手数料) 購入で、資料形態が電子ジャーナル（よって固定費購入のバックナンバーは除外) とした。両者ともに、C の冊子体支払額抽出条件は、それぞれ対応する表1 冊子体に同じ。

**(5) 社会連携・地域貢献への影響**

2020 年度の図書館の学外者への利用は、結果的に 4 月 1 日～3 日及び 6 日・7 日の平日計 5 日間のみであり、かつ閉館時間が 22:00 から 17:00 へ短縮となった。6 月より限定して短縮開館を開始したが、ウイルス拡大防止の観点から、教育・研究を優先するために学内者のみの利用に限定せざるを得ず、学外者の図書館利用は不可とした。限定短縮開館が始まって間もなく、学外者からの利用を希望する問い合わせは多かったが、新型コロナウイルスの特性や他の公共・商用施設においても同様の制約があることから、徐々にではあるが入館要望の声が少なくなっていった。

学外者へは以下のとおり対応となった。

**●学外者の利用停止****【学外者】**

- ・ 付属校（明治高等学校・中学校教職員除く）
- ・ 協定校・機関（山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム・総合研究大学院大学・東京医科歯科大学・順天堂大学・杉並区図書館ネットワーク協定校・「神奈川県内大学図書館共通閲覧証」による利用・関西大学）
- ・ 校友
- ・ 地域住民（千代田区民，杉並区民，世田谷区民，川崎市在住・在勤者）
- ・ リバティアカデミー会員
- ・ 明治大学カード会員
- ・ 博物館友の会
- ・ 所属機関発行の紹介状による利用者

※貸出中の図書の返却については、利用者の不利にならないよう配慮。

※地域住民は、利用証の有効期限が 2020 年 4 月 8 日～2021 年 4 月 9 日までの方について、原則有効期限を利用再開日より一律 1 年延長とし、返金希望者には利用できなかった日数分を日割計算して返金した。

※リバティアカデミー会員は、2020 年度の利用証の新規登録及び更新を行った方について、外部利用者が図書館入館利用可能となった日から有効期限を 1 年延長とした。

**●学外者の新規利用登録・更新停止**

- ・ 4 月 3 日以降の新規利用登録・更新について受付停止。

**●本学所属者の紹介状による他大学図書館（他機関）利用**

- ・ 4 月 8 日以降：受付停止。10 月 21 日以降：依頼先機関が受入可能な場合は発行を再開。

**●他機関からの紹介状による本学図書館利用**

- ・ 受付停止。（2020 年度 0 件）

**●図書館見学**

- ・ 受付停止。（2020 年度 0 件）

## (6) 社会情勢・大学の動きと図書館の対応記録

	社会情勢・大学の動き（・で表記）	図書館の対応 ※開館状況の詳細は（1）、サービスの詳細は（2）参照
2019/12	中国・武漢市で原因不明の肺炎患者確認	
2020/1	国内初の感染者確認	
1/30	WHO「国際的な緊急事態」を宣言	
2/27	小中高校に臨時休校要請 ・卒業式中止公表	
3/4	・大学HPに新型コロナウイルス感染症特設ページ開設	・開館時間短縮変更
3/12	・入学式中止公表	
3/24	東京オリンピック・パラリンピック1年程度延期を決定	
3/26	・卒業式中止	
3/27	東京都および神奈川県の外出自粛要請公表	
3/28		・3/28～31 臨時休館
4/1	・春学期開始	・4/1～4/7 開館時間短縮変更
4/4		・4/4～5/6 土日祝日臨時休館
4/7	東京都など7都府県に「緊急事態宣言」発出 ・入学式中止	
4/8	・大学で入構制限措置の実施 ・職員の「臨時的な在宅勤務」の開始（～5/6）	・4/8～5/6 臨時休館
4/10		・HP上で「図書館オンラインガイダンス」の特設コンテンツ公開
4/11	東京都休業要請開始	
4/16	「緊急事態宣言」全国に拡大 13都道府県は「特定警戒都道府県」に	
4/17		・HP上で「自宅からも使える電子資料」の特設コンテンツ公開
4/22	<b>明治大学活動制限指針レベル4（～5/31まで）</b>	
	・明治大学活動制限指針公開。レベル4を設定	
5/1		・臨時休館延長（～5/24） ・メールによるレファレンスサービス開始
5/4	「緊急事態宣言」5/31まで延長決定	
5/7	・職員・嘱託・派遣職員「臨時的な在宅勤務」の延長（～5/24）	
5/8		・臨時休館延長（～5/31）
5/11		・郵送貸出サービス＜第1回＞開始（～5/31）
5/12		・「明治大学活動制限指針」に基づき、「図書館運営方針」を策定し、図書館スタッフ会にて報告・了承、運用開始
5/14	「緊急事態宣言」39県で解除8都道府県は継続 日本図書館協会「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」公開	
5/18		・所蔵雑誌複写郵送サービス＜第1回＞開始（～5/27）
5/21	「緊急事態宣言」関西は解除 首都圏と北海道は継続	
5/25	東京都など4都道府県「緊急事態宣言」解除 ・職員・嘱託・派遣職員「臨時的な在宅勤務」の延長	
5/29		・学内者の貸出資料の返却期限延長。返却期限日2020/3/1以降となっているものを9/30へ延長処理
6/1	<b>明治大学活動制限指針レベル3（～6/30まで）</b>	
	・明治大学活動制限指針レベル4→3へ ・職員・嘱託・派遣職員は原則通常勤務（週2日の在宅勤務）へ変更（～6/30）	・貸出サービスのみで開館再開（短縮・限定開館開始）※ローライブラリーは引き続き臨時休館（～2021/3/31） ・ILL複写申込（DDS含む）サービス＜第1回＞開始（～9/30）

6/2	「東京アラート」発出	
6/12	「東京アラート」解除	
6/17		・入館運用変更（入館対象者の拡大） ・非接触体温計を各地区図書館へ配備
6/19	東京都休業要請解除	
6/29		・国立国会図書館（NDL）デジタル化資料送信サービスメール利用予約開始（～10/14）
7/1	明治大学活動制限指針レベル2（～2021/1/7まで）	
7/1	・明治大学活動制限指針レベル3→2へ ・職員・嘱託・派遣職員は通常勤務へ変更	・入館運用変更（開館時間拡大）
7/6		・郵送貸出＜第2回＞開始（～7/31）
7/11		・入館運用変更（土日開館追加）
7/15		・空調において外気取入を増やしていたところ、各地区において椅子及び資料にカビの発生を確認→清掃・駆除へ
7/16		・大学の入構方式に則り、非接触型検温器（三脚設置型）を図書館入口に設置
8/1		・夏期休暇体制（9/19まで短縮・限定開館を継続）
9/1		・ILL 貸借申込受付再開（～9/30）
9/7		・閲覧席の席数を制限して利用再開。あわせて、貸出用 PC 利用および貴重書閲覧・マイクロの利用サービスも再開
9/20	・秋学期開始	・入館運用変更（開館時間拡大・日曜開館（中央図書館のみ））
10/14		・学外者（地域住民、リバティアカデミー）の対応について、原則として有効期限を延長とする対応に決定。詳細は（5）参照
11/9		・制限していたカウンター運用を再開。カウンターサービスを原則通常どおりする。 ・郵送貸出＜第3回＞開始（～12/20） ・所蔵雑誌複写郵送サービス＜第2回＞開始（～12/20） ・ILL 複写郵送サービス＜第2回＞開始（～12/13）
12/14		・＜中央・和泉＞定期試験およびレポート作成期間に鑑み、入館運用変更（平日開館時間延長）（～2021/1/8）
12/21		・＜中野＞定期試験およびレポート作成期間に鑑み、入館運用変更（平日開館時間延長）（～2021/1/8）
12/31	東京都 新型コロナウイルス感染者数初の1000人超（1337人）	
2021/1/5	・「緊急事態宣言」発出見込みのため、臨時で新型コロナウイルス教学対策協議会開催。継続して図書館の開館の要望あり	
1/7	1都3県に「緊急事態宣言」発出（～2/7まで） 東京都 新型コロナウイルス感染者数初の2000人超（2447人）	
1/8	明治大学活動制限指針レベル3（～3/21まで）	
	・明治大学活動制限指針レベル2→3へ	・＜生田＞定期試験およびレポート作成期間に鑑み、入館運用変更（本日のみ開館時間延長） ・郵送貸出＜第4回＞開始（～1/24） ・所蔵雑誌複写郵送サービス＜第3回＞開始（～1/24） ・ILL 複写郵送サービス＜第3回＞開始（～3/26）
1/10		・＜生田・中野＞入館運用変更（日曜開館再開）
1/12		・全館入館運用変更（平日開館時間短縮） ・郵送貸出・複写サービスの拡大
1/13	7府県にも「緊急事態宣言」発出（合わせて11都府県）	

1/17		・<和泉>定期試験およびレポート作成期間に鑑み、入館運用変更（日曜開館再開）（～1/31）
2/1	「緊急事態宣言」延長決定（10都府県 3/7 まで）	
2/12		・<中央>入館運用変更（平日開館時間短縮）
2/17	医療従事者に対するワクチン先行接種開始	
3/5	「緊急事態宣言」延長決定（1都3県 3/21 まで）	
3/21	1都3県の「緊急事態宣言」解除	
3/22	明治大学活動制限指針レベル2（～2021/6/20 まで）	
	・明治大学活動制限指針レベル3 → 2へ	・<中央>入館運用変更（平日開館時間延長）

## 1.2 オープンアクセスの推進

本学は2019年12月5日、「研究成果を広く学内外に公開し、また、そのアクセスを恒久的に保証することにより、学術研究のさらなる発展に寄与し、社会の持続的発展に貢献」することを目的として、オープンアクセス方針を制定した。昨年度末に実施予定だった「オープンアクセス方針説明会」は、新型コロナウイルス感染症の拡大により延期となり、1年遅れで2021年3月10日に開催した。完全オンライン(Zoom)で実施し、各キャンパスから教職員合わせて51名の参加があった。実施後には複数の紀要編集担当部署から個別の相談を受けた。

また学内紀要について、掲載論文全てを発行責任者の許諾により包括的に登録する「包括許諾」、リポジトリ登録・公開許諾を編集事務局で代行取得する「代行許諾」の推進を行い、オープンアクセス化を進めた。

今後は教員向けの説明会を継続して行い、学術論文の登録数を増やしていくと共に、リポジトリへの論文登録体制を整備し、オープンアクセス推進の活動をさらに加速させていきたい。

## 1.3 電子資料（データベース・電子ジャーナル）関係

2020年度は入構制限や図書館の臨時休館、オンライン授業実施の影響を受け、オンライン情報源に対する学外アクセスの要望が非常に高くなった。学外からはVPN接続経由でアクセス出来るものが多かったが、春学期は大学が提供するVPN接続数が限られていたこともあり、積極的に案内することが出来なかった。そのため、従来は一部の限られたコンテンツのみ運用していた「学認」（学術認証フェデレーションによる機関認証）などのVPN接続を必要としない学外アクセス方法の設定も進め、海外電子ジャーナル・データベース、国内データベース等でVPN以外の機関認証による学外アクセスに対応しているオンライン情報源が拡大した。その他、従来は学外アクセス不可となっていたものもVPN接続可能になるなど、業者による学外アクセス対応も拡大した。

国内データベースについては、同時接続数により契約価格が決まっており、デジタル資料費抑制の目的で縮小してきた経緯があるが、4月以降提供業者からの支援や、本学からの依頼などにより、無償あるいは特別価格にて同時接続数を増設したコンテンツがあった。また、超過ログイン数（同時接続数の上限に達し、データベースにアクセス出来ない数）が多いコンテンツについては、予算を措置し同時接続数を増やした。2021年度も一部オンライン授業が実施されることから、新規導入及び同時接続数の増設により、学習用電子資料の拡大を行った。

電子資料のトライアルは、原則として導入を前提とするもののみ行ってきたが、今年度は電子ジャーナル・データベース・電子ブックなどで導入を前提としないトライアルを実施したほか、海外出版社などによるCOVID-19関連情報を含む研究成果の一般公開の動きが拡大したこともありオンライン情報源へのアクセス範囲が広がった（1.1 新型コロナウイルス感染症への対応（2）オンライン図書館サービスも参照）。

電子資料契約に関しては、従来は海外出版社をはじめとして大半の製品で価格上昇が続き、大学図書館は長期的な予算確保に苦しんできたが、今回のコロナ禍においては、コンソーシアムなど大学図書館側の要請を受け翌年の価格を一定程度抑制する動きも見られた。

## 1.4 生田新図書館について

生田図書館は、1970年4月に「明治大学図書館生田分館」として構内の現在地に独立した一棟の建物で開館した。さらに1988年4月の増改築竣工を機に「明治大学生田図書館」と名称変更し、現在の建物外観となる。また、1995年には図書館南側隣接面（農学部創立50周年記念庭園）地下に明治大学の現4図書館共通の図書・資料の保存庫である「生田保存書庫」（地下2層）が建設されている。建物の老朽化に伴い、生田新図書館建設について近年話題になることが多くなった。

2012年5月に和泉新図書館が開館した。これに続くべく生田新図書館建築に向けて、同年6月、館長の下に生田キャンパス新図書館検討WGを設置し、新しい時代に求められる生田新図書館のあり方について検討を開始し、同年7月に「生田キャンパス新図書館構造（案）」としてまとめた。学内では、2013年に「第二中央校舎（仮称）計画」（生田キャンパス教育研究環境整備委員会）が打ち出され、この構想では新図書館機能

を盛り込む計画となっていた。2018年8月には、生田グランドデザイン専門部会で提案された「生田キャンパス将来計画案」中の「第二中央校舎（仮称）建設計画」に対して図書館から要望を提出した。同年11月、生田グランドデザイン専門部会からこれに対する回答があり、図書館からの要望がすべて満たされていることを受けて、今後変更がない限り、第二中央校舎（仮称）に図書館を設置する案で検討を進めることを了承した。その後、第二中央校舎（仮称）の建設場所について検討が進められ、最終的に図書館隣地ヒマラヤ杉植栽地に決まった。

第二中央校舎（仮称）建設計画については、教育研究施設計画推進委員会生田キャンパス施設計画専門部会にて検討が進められた。最終的に2020年2月に生田キャンパス施設計画専門部会荒川座長から教育研究施設計画推進委員会飯田委員長へ答申書が提出され、建設順位第一位を第二中央校舎（仮称）とすること、第二中央校舎（仮称）は2025年度使用開始を目標とすること、第二中央校舎（仮称）の建設位置の第一位候補地をヒマラヤ杉植栽地とすることなどが盛り込まれている。

2020年度の第二中央校舎（仮称）建設検討については、以下のとおりである。2021年度春学期中にプロポーザルの実施に向けて検討を進めた。

- 2021年 1月28日（木） 建設推進協議会（第1回）
  - 総合部会（第1回）
- 1月29日（金） 生田グランドデザイン専門部会（第2回）
- 2月 3日（水） 図書館作業部会（第1回）
- 2月22日（月） 合同作業部会（第1回）
  - 図書館作業部会（第2回）
- 2月26日（金） 総合部会（第2回）
- 3月 3日（水） 建設推進協議会（第2回）
- 3月 9日（火） 合同作業部会（第2回）
  - 図書館作業部会（第3回）
- 3月29日（月） 総合部会（第3回）

## 1.5. 私立大学図書館協会総会・研究大会当番校業務

2020年度私立大学図書館協会総会・研究大会当番校として、開催1年前の2019年度夏頃から、テーマ「大学図書館のコレクション構築を考える」、会場は駿河台キャンパスとして、総会・研究大会の準備を進めていた。しかし、新型コロナウイルスの感染が拡大し、都市部では外出自粛要請や緊急事態宣言発出の動きが出る中、協会の第1回常任幹事会（4月3日開催）において、2020年度の協会行事はすべて「集合形式での開催見送り」とすることが決まり、総会・研究大会についても、急遽、別形態での開催を検討することとなった。会長校である國學院大学とも検討を重ね、最終的に、総会はメール会議、研究大会はZoom ウェビナーを用いたオンライン配信と、動画・資料公開のオンデマンド形式で開催することとなった。研究大会は、9月17日に中央図書館多目的ホールをメイン会場として、記念講演及びテーマ講演を配信し、102校136名の参加があった。また、協会のホームページに加盟館限定ページを設け、海外認定研修報告及び研究助成発表の動画・資料公開を行うとともに、オンライン研究大会の動画を加盟館に公開した。